

○小児への影響について

・胎児への影響

妊娠中の放射線被ばくは胎児に影響を及ぼす場合がありますが、単純 X 線撮影などの微量の放射線しか用いない検査では、影響がでることはありません。

胎児への影響は確定的影響であるため、しきい値が存在します。

胎生期	期間	影響	しきい値 (mGy)
着床前期	受精～10 日	胚死	100
器官形成期	受精 11 日～8 週	奇形	100
胎児期	受精 8 週～25 週	精神発達遅延	200
	受精 8 週～40 週	発育遅延	400

このように、胎児への影響は 100mGy 以下であれば問題ないことがわかります。

・小児への影響

小児は大人よりも体格が小さく、放射線の影響を受けやすいといえます。しかしその分大人よりも低線量で検査が可能であり、短時間で終わらせられるよう工夫しております。

また、安全に検査を施行するため、必要に応じてご家族の方にも立ち会っていただく場合もありますのでご協力よろしくお願い致します。